

AIで手洗い判定

コンテック 外食・食品向け投入

コンテック（大阪市西淀川区、西山和良社長）は、人工知能（AI）で手洗いの仕方を認識し、正しい手順を指導するシステムを発売した。きちんと洗えているかを、カメラ映像からAIが判定する。外食産業や食品工場向けに展開する。日本語・英語以外の言語表示も追加可能で、外国人も使いやすい。価格はオープンだが消費税抜き40万円以下を想定。年間1000台の販売を目指す。

エッジAI搭載のコンピュータと手元を撮影するカメラで構成。以上の精度で判定する。厚生労働省が推奨する食品衛生の手洗内容をカスタムするこ

ともできる。

一度に1人の利用を判定する。集積回路（IC）カードや2次元コード（QRコード）で利用者を認識し、手洗い記録を残す機能もある。利用者ごと

元コード（QRコード）で利用者を認識し



コンテックが発売する手洗い判定システム

に表示言語の切り替えも可能だ。

コンピュータは生活防水に対応しており、寸法は幅270ミリ×高さ220ミリ×奥行き49・1ミリ。重量は2・3キロ。

コンテックは産業用コンピュータやIoT（モノのインターネット）機器を手がけるメーカー。特に計測用プログラマブルロジックコントローラー（PLC）に強みを持つ。これまでもAIによる手洗い判定システムの開発を進めており、外食・食品業界向けにハードウェアを発売するのは今回が初めて。食品衛生管理基準「HACCP」に対応するための需要を見込む。